

科目名	看護実践基盤学Ⅴ（診療補助技術）			ナンバリング	PEB131	授業形態	演習
対象学年	2 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	矢澤香代子	担当教員	大堀昇、木部美知子、助手、その他				

授業の概要	看護活動に必要な診療の補助に関する看護の目的と役割について理解し、あらゆる看護場面で必要となる診療の補助に対する看護援助方法について学修する。これらの根拠となる知識の基に、医療・看護の場で用いられる技術が看護対象者に対して安全・安楽・迅速かつ目的に合ったものであることを学修する。						
到達目標	1. 診療に伴う援助技術について説明できる。 2. 診療に伴う援助技術では、原理・原則に沿って安全・安楽・迅速かつ目的にあった技術を提供できるように診療に伴う援助技術を経験する。 3. 看護対象者に最適で最善の技術とは何かを考察できる。						
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）	1. DVDなどの視聴覚教材を活用し技術のイメージをつける。 2. 講義の予習復習を行い、不明な点を残さないように解決する。 3. 適宜、文献を活用し技術の根拠を理解する。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
		4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①診療に伴う援助技術について、原理・原則を述べることができる。 ②診療に伴う援助技術の準備、実施、評価、後片付けができる。 ③診療に伴う援助技術に必要な倫理的態度を考察することができる。 ④診療に伴う援助技術に関する自己の課題を考察することができる。	①診療に伴う援助技術について、原理・原則を述べ、実施できる。 ②診療に伴う援助技術の準備、実施、評価、後片付けが一人でできる。 ③診療に伴う援助技術に必要な倫理的態度をとることができる。 ④診療に伴う援助技術に関する自己の課題を明確化することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験（中間・期末試験）	○	○					50%
小テスト・授業内レポート	○	○					10%
宿題・授業外レポート	○	○					10%
授業態度・授業への参加			○	○	○		5%
演習	○	○	○	○	○		25%

課題、評価のフィードバック	①小テスト、課題レポートは講義内、次週の講義で解説、評価を行う。 ②オフィスアワーを明示し、学生がいつでも質問できる対応を行う。 ③定期試験の評価は学生から要請があったら開示できるように準備する。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	診療に伴う援助技術とは	診療に伴う援助技術の看護の目的と役割 検査とは	
	第2回	身体計測	身体計測の必要物品・方法・看護	
	第3回	感染を予防するための看護技術(1)	消毒法と滅菌法	
	第4回	感染を予防するための看護技術(2)	感染症を予防するための援助としての消毒、無菌操作と滅菌物の取り扱い	演習
	第5回	感染を予防するための看護技術(3)	検体の取り扱い	
	第6回	検査の援助(1)	X線撮影・超音波・CT・MRI・内視鏡・心電図	
	第7回	検査の援助(2)	尿・便・喀痰・血液・穿刺・核医学・基礎代謝・呼吸器	
	第8回	治療・処置時の援助(1)	洗浄・吸引・ME機器のモニタリング	
	第9回	治療・処置時の援助(2)	洗浄・吸引・ME機器のモニタリング	
	第10回	与薬(薬物療法)に関する看護技術(1)	与薬とは、法的根拠	
	第11回	与薬(薬物療法)に関する看護技術(2)	与薬の基礎知識	
	第12回	与薬(薬物療法)に関する看護技術(3)	与薬の援助技術(経口・口腔・直腸・点眼・点鼻・点耳・)	
	第13回	与薬(薬物療法)に関する看護技術(4)	与薬の援助技術(吸入・塗布・貼付)	
	第14回	与薬(薬物療法)に関する看護技術(5)	注射による与薬法(皮下・皮内・筋肉・静脈内)	
	第15回	与薬(薬物療法)に関する看護技術(6)	注射の援助技術(皮下・筋肉)	
	試験	中間試験は実施しない。		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	与薬(薬物療法)に関する看護技術(7)	シミュレーターを使用しての筋肉内注射の実施	演習
	第17回	与薬(薬物療法)に関する看護技術(8)	シミュレーターを使用しての筋肉内注射の実施	演習
	第18回	与薬(薬物療法)に関する看護技術(9)	注射の援助技術(静脈注射)	
	第19回	与薬(薬物療法)に関する看護技術(10)	注射の援助技術(静脈注射)	
	第20回	輸血時の看護	輸血のための基礎知識、輸血時の看護	
	第21回	採血時の看護(1)	採血の方法と看護	
	第22回	採血時の看護(2)	シミュレーションターを使用しての静脈採血の実施	演習
	第23回	採血時の看護(3)	シミュレーションターを使用しての静脈採血の実施	演習
	第24回	呼吸・循環を整える看護技術(1)	呼吸を楽にする看護、循環を整える看護	
	第25回	呼吸・循環を整える看護技術(2)	酸素療法、吸引(口腔内)療法、体位ドレナージ	演習
	第26回	呼吸・循環を整える看護技術(3)	酸素療法、吸引(口腔内)療法、体位ドレナージ	演習
	第27回	皮膚創傷を管理する看護技術(1)	創傷処置・包帯法	
	第28回	皮膚創傷を管理する看護技術(2)	創傷処置・包帯法	
	第29回	皮膚創傷を管理する看護技術(3)	創傷処置・包帯法	演習
	第30回	皮膚創傷を管理する看護技術(4)	創傷処置・包帯法	演習
	試験	期末試験を実施する。		
授業の進め方		講義を行った後に演習を行う。必要場合は時間外にも学生の自己学修を支援する。		
授業外学習の指示		予習はmanab@IMU掲載の資料およびテキストの指定箇所を熟読し、復習は授業内容を理解するためのノート整理と資料を熟読するとともに、授業内で行った看護技術を各自復習する。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	ナーシンググラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術 第6版、メディカ出版,2018 .
参考書	その都度提示
参考URLなど	
その他	